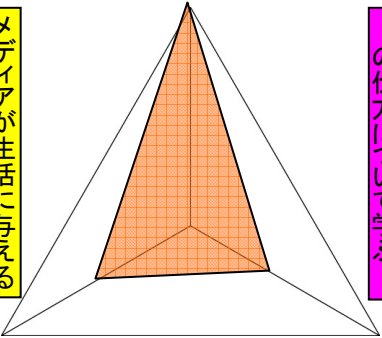


パッケージ名	伝え方の手段を学ぼう (小学校高学年, 1単位時間)	
実践のねらい	・情報をやりとりする手段にはそれぞれ特徴があり、やりとりする内容や状況によって適切な情報手段を選ぶ必要があることがわかる。	
この実践のメディアについて学ぼう	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> メディアの特性と適切なメディアの選択の仕方について学ぶ </div> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; font-size: small;"> メディアが生活に与える影響について学ぶ </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; font-size: small;"> メディアが取り巻く社会での安全な行動の仕方について学ぶ </div> </div>	実践の意図 <ul style="list-style-type: none"> ○想定する子どもの状況 ・友人とのやりとりの中で、直接伝えた方がよいことでも手紙やメールを使い、行き違いの元になっている。 ・情報手段の特徴を理解し、場面や内容によって使い分ける意識を持たせる必要がある。 ○パッケージの目標 ・情報手段の特徴を整理し、具体的な場面でよりよい情報伝達の方法を考えていく中で、状況に応じて適切な情報伝達の手段を選ぶことのできる力を育てたい。 ○留意点 ・どんな方法で情報をやりとりするのが適切か、具体的な場面を示して考えさせることで実践につなげたい。

受 = 情報の受け手としての知識を得る・配慮を知る
 送 = 情報の送り手としての工夫・配慮を知る

I. 友人と情報をやりとりする方法にはどんなものがあるか考えさせる。(5分)

- **友人に何かを伝えたい、聞きたいするにはどんな方法があるでしょう。**
 日常生活を振り返らせ、友達と、直接話す、手紙、電話、電子メール、人に伝えてもらうなどの手段で情報をやりとりしていることを思い起こさせる。

II. それぞれの方法の特徴を考える。(15分)

- **それぞれの方法にはどんな特徴があるでしょう。話し合ってワークシートに書いてみましょう。** WS: 特徴
 - 送 受 情報の送り手、受け手両方の立場に立って、それぞれの方法の特徴について考えさせる。
- 経験の差などによって考えが出しにくいことも考えられるので、グループで話し合いをする中でまとめさせる。

III. 具体的な場面で、どの方法を使ったら一番よいか考える。(20分)

- **こんな場面では、どの方法で伝えたら一番よいでしょう。** WS: こんな時で伝える？
 - 送 受 友達に宿題の内容を聞く時、けんかしてあやまりたい時、転校した友達に最近の出来事を知らせたい時、別の友達がその友達の悪口を言っていたことを教えたい時 の4つの場面を想定し、どの方法を使ったらよいか考えさせる。
- それぞれの場面設定ではそれぞれいろいろな状況が考えられる。正解を一つにしぼるのではなく、状況によってよりよい手段があるという考えを大事にしたい。

IV. 情報をやりとりする方法を選ぶ時、気をつけることについてまとめる。(5分)

- **友達に何かを伝えたい、聞きたいする方法を選ぶ時、どんなことに気をつけたらよいかまとめましょう。**
- 本時の学習を振り返り、情報をやりとりする方法を選ぶ時に気をつけることをまとめる。 WS: まとめ
- 発表後、以下の点をおさえながらまとめる。
- 送 情報手段にはそれぞれ特徴があるので情報の内容や状況によって、よりよい手段を選ぶ必要があること。
- 送 情報手段を間違えると、時に人を傷つけたり迷惑をかけるようなこともありうること。